# 教科等研究会（小学校道徳部会）

# 平成２９年度　研究活動のまとめ

## １　研究テーマ

自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を深めるための、
多様な指導方法の工夫。

## ２　研究経過

| 第１回 | | | 第２回 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 6/9 | 33 人 | 益城中央小学校 | 11/30 | 御船町立御船中学校 | 岩野　靖教諭 |
| 第３回 | | | 第４回 | | |
| 1/16 | 御船町立木倉小学校 | 五反田美智乃教諭 | 2/20 | 御船町立御船小学校 | 豊住　和幸教諭 |

## ３　研究の概要

### （１）研究の内容

小学校新学習指導要領における道徳科の目標から、児童一人一人が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、道徳性を養っていけるような道徳科の指導を工夫することが重要だと捉えた。また、児童が道徳的価値についての理解を深め、よりよく生きようとする気持ちを高めることが、「分かる・できる」「楽しい」道徳の授業につながると考えた。

◎**「分かる」道徳の授業**とは・・

価値理解、人間理解、他者理解、自己理解を深める授業

＝道徳的価値を理解し、自分の生き方についての考えを深める授業

※①ねらいとする道徳的価値が大切であることが分かる（価値理解）

②大切ではあるが道徳的価値に根ざした行為は容易ではないことが分かる（人間理解）

③道徳的価値にかかわる見方・考え方は人によって様々であることが分かる（他者理解）

◎**「楽しい」道徳の授業**とは・・

子どもが、「考えたい、聞きたい、話したい」と思える授業

＝道徳的価値を、自分とのかかわりで考える授業

本研究では、学習指導要領解説道徳編に示された指導方法の工夫の中からねらいや児童の実態、資料や学習過程に応じて、最も適切な指導方法を選択して指導案に明記し、授業の中で工夫して生かすようにした。

◇道徳の時間に生かす７つの指導方法の工夫

① 資料提示；教師による読み聞かせ（紙芝居、ペープサート等）、ビデオ映像等
② 発問；児童の意識の流れに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問等
③ 話合い；意図的指名、座席配置の工夫、ペアやグループ討議などの工夫等
④ 書く活動；吹き出しを付けたワークシートの工夫等
⑤ 表現活動；役割演技、動作化等
⑥ 板書；順接的な板書、構造的な板書、意見の違いを類型化した板書等
⑦ 説話；日常の話題や学級の出来事を生かした内容、「私たちの道徳」の活用等

### （２）成果と課題

【成果】

○ 事前研で資料分析及び発問の工夫等について協議を重ね、会員による先行授業を実施したため､授業の流れや児童の反応について情報交換を行いながら指導案を練り上げることができた。

○ 導入では、辻井さん【６年「心をつなぐ音色」】の「音だけ」から「映像」を効果的に見せることで、辻井さんの生き方に関心を持ち課題意識を明確にもつことができた。

○ 価値理解を考える発問では、児童の感想を活かして意欲的に考えることができた。

○　参観者からのアンケートでは、「教材（資料）の本質的な部分を考えさせることの大切さを実感した。子どもたちの出した意見を比較・分類し、どう取り上げるのか難しいと感じた。今回の授業を参考に、工夫改善をしていきたい。」などの多くの学びがあった。

【課題】

○　対話的な学びから、深い学びにするための工夫が必要である。児童が自分事として考えられるような発問の仕方の工夫。児童の考えを系統立てて板書し、自分と友達の意見を比較できるような板書の工夫。また、児童の考えを揺さぶり、立ち止まり、考えさせるような補助発問の工夫など、授業の工夫改善を更に研究していく必要がある。

**３　実践事例**

**（１）授業の概要**

第６学年　主題名　なりたい自分に　Ａ－（５）希望・勇気、努力と強い意志
資料名　『心をつなぐ音色』出典「新しい道徳６　東京書籍」
授業者　御船町立木倉小学校　五反田　美智乃　教諭

本授業では、以下のような指導の工夫（展開の工夫）を行った。

・導入では、辻井さんの映像を活用し、児童に課題意識を明確に持てるよう工夫する。
・挿絵やキーワードを短冊で提示するなどして、児童が登場人物の行動や心の動きを十分理解できるように板書を工夫する。
・発問は精選し、児童の感想を活かしながら授業を組み立てる。道徳的価値に迫るような中心発問を工夫し、価値を高めるための補助発問等も用意しておく。
・展開前段を中心発問で終わるのではなく、「辻井さんにとってなりたい自分は」という発問を入れることで道徳的価値をより高めるようにする。
・終末では、児童を１年生の時から支えてきた支援の先生から辻井さんの生き方と重なる児童の成長を話してもらい、未来に自信と希望がもてるようにする。

**（２）学習指導案**

# 第６学年　道徳学習指導案

日　時　平成３０年１月１６日（火）５校時
場　所　６年教室
指導者　教　諭　　五反田　美智乃

１　主題名　　なりたい自分に　　Ａ－（５）希望・勇気、努力と強い意志
２　資料名　　「心をつなぐ音色　～ピアニスト辻井伸行」　（出典『新しい道徳』東京書籍）
３　主題について

（１）　ねらいとする価値

第５学年及び第６学年Ａ－（５）希望・勇気、努力と強い意志は、「より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」をねらいとしている。

児童が一人の人間として自立しよりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲を持つことが大切である。そのためには、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力するとともに、やるべきことはしっかりとやり抜く忍耐力を養うことが求められる。

この段階の児童は、児童がそれぞれに高い理想を追い求める時期と言われる。その一方、自分に自信がもてなかったり、思うように結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。このような時期であるからこそ、様々な生き方への関心を高めるとともに、自己の向上のためにより高い目標を設定し、その達成を目指して希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力しようとする強い意志と実行力を育てる必要がある。中学校へ向け、新しい生活に大きな期待を寄せているこの時期。なりたい自分を見つめ、目標を持ち、それに向かって努力することの大切さを感じさせたい。

希望・勇気、努力と強い意志を学ぶと同時に、「個性の伸長」「よりよく生きる喜び」などの内容項目も関連して考えることが予想される教材である。

（２）　児童の実態

本学級の児童は、男子８名、女子１４名、計２２名の学級である。

事前アンケートの結果は、以下の通りであった。（アンケートは、２１名で実施.。）

１　あなたは、こんな自分になりたいという目標がありますか。

ある（１６名）　　ない（５名）

・だれかがまちがったことをしたときに注意できる人。　・もっと優しくなりたい。
・努力する人。
・すぐにあきらめる自分を変えたい。
・みんなの前で、自信を持って意見を言えるようになりたい。
・人と楽しく接することができる人になりたい。
・やれなければならないことをできるように頑張りたい。
・人から信頼される人になりたい。　・人の役に立っている自分。
・小学校の先生になって、みんなにバスケを教えたい。・人の病気を治す、医者になりたい。

２　今、何か目標に向けて努力していることはありますか。

ある（１６名）　　ない（５名）

・水泳で、速く泳げるようになること。　・中学校に向けて、バスケを頑張りたい。
・中学校に向けて、勉強を頑張っている。
・検定試験に向けて頑張っている。(漢字検定、そろばん)

３　今までに、何かに向けて努力したり、頑張ったりしたことはありますか。

ある（２０名）　　ない（１名）

・部活の大会に向けて、毎日必死に頑張った。　・運動会に向けて頑張った。
・漢字検定のとき、努力した。　・持久走の練習のとき、精一杯頑張った。
・中学校の受験に向けて、勉強を頑張った。　・中学校に向けて勉強を頑張っている。
・体育で、できるようになりたくて頑張った。・塾や学校の勉強を一生懸命取り組んだ。
・水泳記録会のとき、たくさん練習した。　・漢字大会で、９０点で合格した。
・ボランティアを頑張った。

４　努力の結果、うまくいかなかったことはありますか。そのときの気持ちと行動を教えてください。

・バスケの大会の後、負けたことがあった。もっと頑張らないといけないと思った。
・悔しい、もっと頑張りたいと思った。
・悔しくて悲しくて、でもあきらめずにやりきったので良かった。
・悲しかった。その後、たくさん練習した。
・「何で、できたのに。」と思った。そのとき、あきらめた。
・「もう、やりたくない。」と思った。
・「何で自分にできないの。みんなにはできるのに。自分には一生できない」と思った。

将来の夢や「こんな自分になりたい」という目標をもっている児童がいる反面、数名の児童が目標を明確に持てずにいる。熱中できるものがないため、学校生活に満足できずにいたり自分に自信が持てなかったりしていることが、普段の様子からも伺える。また、目標に向かって努力した結果うまくいかなかったとき、途中で止めてしまったり、自分にはできないとあきらめてしまったりしている児童もいることがわかる。

5　本時の学習

（1）　ねらい

辻井さんの生き方から、「なりたい自分」や目標を明確に持って、それに向かって最後までくじけずに努力することの大切さに気付き、なりたい自分について考え、努力していこうとする心情を育てる。

（2）　展開

| 過程 | 時間 | 学　習　活　動<br>（教師の発問と指示・児童の反応） | 指導上の留意点と評価 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 導入 | 5 | 1　辻井さんについて知る。<br>伸行さんのピアノを演奏する姿を見て、どう思いましたか。<br>・目が見えないのに、ピアノが上手ですごい。<br>・気持ちよさそうに演奏している。<br>・全身を使って音楽を表現している。<br> <br>伸行さんの生き方から、「なりたい自分」を探ろう。 | ・辻井さんの演奏する曲の音のみを聞かせ、その後映像を見せる。映像を見た児童の感想を引き出し、年表で辻井さんの紹介をする。<br>・児童の関心を高め、価値への方向付けを行う。 | テレビ<br>ＰＣ<br>スピーカー<br>年表<br>写真 |
| 展開 | 25 | 2　資料を視聴し、話し合う。<br>心に残ったことや更に考えたいことはありませんか。<br>・伸行さんは生まれつき目が見えないにも関わらず、耳で音を聞き取って曲を覚え、ピアノを上手に弾くことができるから、すごいと思う。<br>・コンクール前、先生はこれ以上無理だとあきらめたけれど、伸行さん最後までピアノに向かって練習していたところが心に残った。<br>・コンクールで落選したとき、みんなは涙を流したが、伸行さんただ一人泣かなかった。それがなぜかを考えてみたい。<br>先生に「これ以上よくならないね。もうだめだね。」と言われたとき、伸行さんはどんなことを考えたでしょうか。<br>・今までずっと練習してきたのに…悔しい。<br>・どうしてうまく弾けないのか！もうこれ以上だめなのかな。<br>・どうして先生はそんなことを言うのだろう。今までやってきたのに。<br>・先生の言うようにもう無理なのかな。でも、僕はあきらめたくない。<br>・大好きなショパンの曲だ。あきらめたくない。<br>・最後までマズルカと向き合って、人々に感動を与えられるような演奏がしたい。<br>・お客さんを喜ばせる演奏がしたい、だから悔いが残らないようにあきらめずに練習しよう。<br>伸行さんにとって、「なりたい自分」とはどんな姿だったのでしょうか。<br>・決してあきらめずに、最後まで努力する自分。<br>・大好きなピアノを大切に、楽しむ自分でいたい。<br>・自分が納得できる演奏をしていきたい。<br>・賞を取ることではなく、お客さんの拍手が何よりも大事。<br>・お客さんとピアノの音色でつながることを何よりも大切にしたい。<br>・沢山の人に感動と笑顔を与えられるようなピアニストになりたい。 | ・教材を読み終わった後、話の内容がわかるような板書にする。<br>・資料を聞いて児童が感じたことを発表させる。児童の思いを大切にし、主体的に考えることができるようにする。<br>・言葉に表現できなかったり、考えがまとまらなかったりする児童は、友達と交流させる。<br>・自分の経験と重ね、伸行さんと自分を重ねて考えさせる。<br> <br>・伸行さんが「なりたい自分」とはどんな姿だったかを考えさせることで、道徳的価値に気付かせる。<br>・児童から出なかったときは、落選したとき「なぜ、伸行さんだけ泣かなかったのか」を問うことで、伸行さんの目指した姿（なりたい自分）に気付かせ、価値が深まるようにする。 | 写真<br>フラッシュカード<br>シート |
| 終末 | 15 | 3　今までの自分を見つめ、これからの自分について考える。<br>みなさんは、これからどんな自分になりたいですか。今日の学習を通して、今までの自分を見つめて考えてみましょう。<br>4　ゲストティーチャーの話を聞く。 | ・目標や夢がまだ持てない児童には、伸行さんの生き方から学んだことや感想を書かせる。<br>・学級の児童の今までの頑張ってきたことや成長した姿を紹介し希望がもてるようにする。 | 道徳ノート |

【評価】

辻井さんの生き方から、「なりたい自分」や目標を明確に持って、それに向かって最後までくじけずに努力することの大切さに気付き、これからどんな自分になりたいかを考えることができたか。（発表・学習シート）